

令和4年度第4回亀岡市環境基本計画推進会議

開催日時	令和5年2月6日(月) 午前10時～11時30分
開催場所	亀岡市役所1階市民ホール
出席者	田部委員、船越委員、芦刈委員、豊田委員、山脇委員、木曾委員、井上委員、奥村委員、三間委員、村山委員、川口委員、太田委員、多胡委員、高橋委員 (事務局3名)
欠席者	法貴委員、兒嶋委員、中川委員、原田委員、山内幹事
傍聴者数	なし
次第	協議事項 ・亀岡市再生可能エネルギー導入戦略・亀岡市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)の策定状況について 報告事項 ・ごみの分別拡大について ・「保津川の日」について

1 会長挨拶

2 協議事項

(1) 亀岡市再生可能エネルギー導入戦略・亀岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編) の策定状況について

≪資料に沿って事務局から説明≫

委員

太陽光発電に寄せる期待が大きいですが、景観との兼ね合いは大丈夫か。

事務局

亀岡市では、防災面や景観・自然環境の保全を図るため、「太陽光発電設備の設置等に関する条例」を制定している。アクセルとブレーキのバランスをとりながら進めたい。

確かに、太陽光発電は、亀岡市域の再生可能エネルギーの中で最も高いポテンシャルを示

しているが、省エネや他の手段も組み合わせて計画を推進していきたい。

委員

太陽光発電の土地系についても目標値が示されているが、山を切り拓くメガソーラーなども含んでいるのか。

事務局

「太陽光発電設備の設置等に関する条例」に基づき、禁止区域などを定めている。安全面・景観面に配慮しながら再生可能エネルギーの導入を進められるよう、ハードルをクリアしていきたい。

委員

産業部門や民生家庭部門は、電力会社の排出係数が下がる、または排出係数の低い電力会社に切り替えることで、削減が可能かと思う。一方、運輸部門は事業そのものが二酸化炭素の排出を伴う。EV 促進などの施策は記載されているが、対策が弱いように感じる。

事務局

運輸部門は課題だと認識している。国においても電気自動車や水素自動車の普及を促進している。本市としても、委員の皆さんに意見をいただきながら、カーシェアリングなど様々な対策を含め、検討していきたい。

委員

市民との意識の乖離が気になるところだ。環境方面では亀岡市の注目度は高いが、市民としては我慢を感じていないか。亀岡市の取組がいかに評価されており、自分たちもいいことをしている、ということを周知していった方がよいと思う。

事務局

自分たちの行動をいかに見える化するかが課題だと思う。市からの一方通行ではなく、市民の意見や取組が事業につながるような工夫をしていきたい。しっかりとした広報を基本に、民間事業者などとも連携し、市民参加型のプロジェクトを広げていければと思う。

委員

今、亀岡は有機農業の面でも注目を集めている。様々な手段を使って発信して欲しい。

委員

教育が重要になってくると思う。家で子どもが親に伝えることで大人の意識が変わっていく。その子どもたちが大きくなれば消費者となり、社会も変わっていく。

概要版の再生可能エネルギーのポテンシャルマップが分かりづらいため、道路の名称を入

れるなど修正して欲しい。

委員

計画書 6 ページの SDGs の表記はこれでよいのか。また、ため池での太陽光発電について記載があるが、他市の事例を教えて欲しい。

事務局

SDGs の表記はアイコンの掲載ルールなどからこのような表記となっている。ため池に関しては、兵庫県などでも実施されており、今後、資料を共有させていただきたい。

委員

承知した。

会長

ポテンシャルマップの修正についてはどうか。

事務局

主要な道路などを落としこみ、場所がイメージできるように修正したい。

委員

太陽光発電は、主要な再生可能エネルギーだと認識しているが、パネルの廃棄問題などもある。景観との兼ね合いも求められるだろう。2050年を目標年としているが、環境問題は日々変化するため、計画期間にこだわらず、技術動向や世界の情勢もみながら柔軟に運用していく必要がある。

事務局

太陽光発電のパネルの廃棄は課題となっているが、リサイクルやリユースの技術も開発されている。また、木質系のバイオマス発電やごみの活用、資源化なども技術動向や費用対効果も見据える中で適宜対応していきたい。

委員

何が正解か明確な答えがない中で、知恵を集めて全方位でやっていく必要がある。亀岡市における運輸部門の排出量が話題になったが、例えば EV を導入しても、動かす電力が二酸化炭素を排出して発電しては意味がない。ハイブリッドカーに切り替えるだけでも効果があるので、実際に事業を営む業者に協力してもらうことが大事だ。

そのためには見える化が必要だ。パートナーを増やし、現状の排出量を知ってもらい、削減方法を一緒に考えていくような展開をお願いしたい。

事務局

見える化は大変重要であると考えている。市だけでなく、委員の皆さんをはじめ事業者や市民に意見をいただきながら進めていきたい。

3 報告事項

(1)ごみの分別拡大について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

ペットボトルの収集方法が収集ネットからビニール袋に変わったのはなぜか。

事務局(資源循環推進課)

現行の収集体制の中で分別拡大を効率的に続けるため検討した結果、このようなかたちとなった。ビニール袋についても基本的にはリサイクルに回すこととしている。

委員

分別拡大を面倒に感じる市民も多いはずだ。ごみの処理費用や焼却施設の寿命のことなど具体的に説明した方が理解と協力を得られやすいと思う。

事務局(資源循環推進課)

できる限り、皆さんに現状を伝えられるような冊子を作成したい。

委員

分別拡大の経緯と審議過程を教えてください。

事務局(資源循環推進課)

分別区分については、分別した際に、現状で処理できるかどうか、資源化できるかどうかを考慮した。

経緯としては、令和3年度末から亀岡市循環型社会推進審議会に付議し、9月に答申をいただき、最終的にその内容で進めることを決定した。

事務局

分別拡大については、説明会を開く中で多くの意見をいただいている。しっかりと広報しながら協力を得られるよう取り組んでいきたい。

(2)「保津川の日」について

《チラシを用いて事務局から告知》

事務局

全体として、何か意見があればお聞きしたい。

委員

イベントを開催する際に、駐車場が設けられている。先ほどから自動車の排気ガスが話題となっているが、大きなイベント時などにはバスが無料になっている。年間通して無料にすれば環境の観点からもエコでよいのではないか。

事務局

現状、イベント時には無料になるなどの施策を実施している。公共交通の利用促進として有効かと思うが、費用の点などもあり、すぐに実現は難しいかと思う。脱炭素の観点からできる施策を検討していきたい。

3 副会長挨拶

4 閉会

以上